



山口育児院だより

編集・発行 / 社会福祉法人 山口育児院

2020.11.第43号

〒753-0082 山口市水の上町5-27 Tel 083-922-1027 Fax 083-922-2389

e-mail y-ikuji@estate.ocn.ne.jp URL http://y-ikuji.sakura.ne.jp/

新型コロナウイルスが依然として終息の気配を見せず、我々の生活も未だ不便を強いられています。前号では易経の「窮すれば即ち変じ、変ずれば即ち通ず」という言葉をご紹介しましたが、もう少し述べてみたいと思います。我々は生きていけば時として何かしらの危機に遭遇します。何事もなく一生を過ごせればそれに越したことはありませんが、それは無理でしょう。必ず危機や災いは降りかかってくるものです。そのような事態に直面した時に、我々はどうすればよいのでしょうか。

私の師匠は生前、「人は危機に陥ると兎角動きたがるが、黙ってじっと嵐が過ぎ去るのを待つことも大事だ」と言っていました。何かしなないと落ち着かないとか、すぐに危機を脱したいと焦る気持ちでは分かりません。それでうまくいくのであればそのように努力すべきでしょう。しかし、どうにもならないことも世の中にはたくさんあ

待つということ

ります。今回の新型コロナウイルスもそうです。もちろん、治療薬やワクチンの開発等で努力してくださっている方はたくさんおられますし、それを否定するものではありません。しかしそういう努力ができません。しかしそういう努力ができない我々は、やれることをやった上で、あとはお任せしてじっと待つより他ないのです。じっとしているのと周りからは何もしていないように思われますし、頼りないように映るかもしれません。そう思われるのが嫌でつい動きたくなるものですが、しかし、じっと待つことがどれほど勇気と忍耐のいることか。本当に力のある者にしかできないことかもしれません。その力がない者ほど焦ってむやみに動こうとしてしまいます。

この「待つ」ということの大切さは昔から「易経」の他にもたくさんある書物に書かれています。また、日本の書家であり詩人でもある相田みつをさんにも、「待つ」という詩があります。難しい書物よりも分かりやすいと思いますの

施設長 武重俊之

待つこともむだなことがある
待ってもだめなこともある
待つてむなしきことばかり
それでもわたしはじっと待つ

待つことは本当に辛いことだと思います。しかしそれを一人ではなく皆で乗り越えていこうとすれば、必ず光は見えてくるでしょう。即効性のある薬は劇薬で、副作用も大きくなります。危機を乗り越えるためには、時間はかかるかもしれませんが、長いスパンで物事を考えていくことが大切です。

これは子どもたちの養育についても同じことが言えると思います。あつ高徳な方は、「信じて待つということが究極の教育だ」と仰っておられます。

今回の新型コロナウイルスを子どもたちの養育（教育）に結び付けるのはやや強引かもしれませんが、いずれまた自由に外出し、自由に往来ができるようになる日が来ることを信じて、今をじっと待ちましょ。



七五三

11月は七五三の季節です。3歳が髪置きの儀、5歳が袴儀、7歳が帯解きの儀として、それぞれに意味があり別行事なのですが、現在では同じものと思われるようになってます。また、もともとは数え年で行うものですが、近年は一般的に数え年を使う習慣が薄れているため、満年齢で行うことが増えているようです。

七五三は本来神事なのですが、山口育児院では今年もお寺（洞春寺）で行いました。男の子と女の子それぞれ一人ずつ、本堂に上がり神妙な顔で坐ります。七五三はまだよく分かっていないようで、きれいな着物を着せてもらったものの、これから何が始まるのか、不安な表情でした。鐘が鳴り、緊張の中、大きな声での読経が始まりました。二人はじっとその様子を見つめていましたが、やがて読経が終わると、正面に促されて焼香をします。これも初めての経験なので、職員が傍について教えてあげます。焼香が済み元の場所に



戻ると、理事長先生より二人にお菓子が手渡されます。そこで二人にもようやく少し笑顔が見えました。

終わった後は本堂の正面で記念撮影です。二人とも結局最後まで何が行われたのかよく分かっていないようでしたが、例え分からなくても、こういう行事一つひとつが大切な経験となり、生きる糧となってくれるのではないかと思います。

これからも健やかに、元気に成長してくれることを心より願い、見守っていききたいと思えます。おめでとー！

歩々清風

感染拡大が続いている新型コロナウイルスですが、果たしていつ終息するのでしょうか？依然として我々の生活に支障をきたしています。しかし、こういう状況だからこそ見えてくる新たな発見もあるように思います。

ステイホームで改めて見つめ直すことができた家族との時間の有難さ。不慣れた生活の中で気付き見直すことができただ日々の生活等々。

苦しい状況であることには間違いないかもしれませんが、苦しみを苦しみと受け入れて、その苦しみを前向きに転換する工夫をしてみることが今我々に必要なことではないでしょうか。

「言うは易く行うは難し」と言うように、難しいことは百も承知ですが、ただ指を咥えて見ているだけでなく、「天命に従って人事を尽くす」ようお互いに頑張ってみましょう。

(丁)

御案内

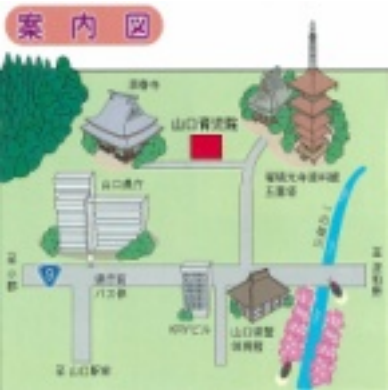
育児院では、地域の方々に施設を利用していただく為に、いろいろなサービを実施しています。

トワイライトサービス
仕事の関係で帰宅が夜間になる方、お子さんの下校時より仕事終了時迄お預かり致します。

短期入所サービス
病气、事故、出産等でお子さんの養育が難しくなった時等、短期間お預かり致します。

当院をご利用ご希望の方はお気軽にご連絡下さい。又ボランティアの受け入れもしております。

福祉に関心のある方、是非一度ご来院下さい。





地蔵まつり 〱 創意工夫

8月5日、今年も毎年恒例の地蔵まつりを実施しました。今年は残念ながら規模の縮小を余儀なくされ、外部の方をご招待することはできず、内輪のみでの開催となりました。

朝から洞春寺に行き、お寺の掃除から始まり、墓参をした後に本堂に上がり坐禅です。坐禅は毎年行っているのですが、慣れた子はしっかりと坐ることができていました。中には初めての子どももいましたが、それでも説明を聞いて、あとは見様見真似で一坐懸命坐っていました。



真似をするということは大切なことで、「学ぶ(まなぶ)」「という言葉は「真似ぶ(まねぶ)」からきているという説もあります。何でもかんでも手取り足取り教えてもらうのではなく、自ら真似て学んでいくという姿勢は大事です。何事においても、あまりにも懇切丁寧に教えてしまうと、自ら考える力が身につかなくなってしまうのではないかと危惧します。山口育児院の2代前の理事長は、「形がでる人は心もできん」と言われていました。最初は意味が分からなくても、周りを見てしっかりと形を真似ていく。それを続けていくうちに、やがて心も自然と整っていく。そういうことだと思えます。



とても香りがよく、それだけで食欲をそそります。実際子ども達は焼きあがったナンをそのまま頬張っていました。パングラデシユの方には本場のカレーも作っていたのですが、香辛料がしつかりと効いたカレーをナンと一緒に食べると最高です。

また、ナンを焼くのと同時に竹を割って作った樋を利用して流しそうめんも楽しみました。大きな釜で一度に大量のそうめんを湯掻き、下待ち構える子ども達目がけて樋の頂点から流していきます。器用に掬ってたくさん食べる子、なかなか上手に掬えずに悪戦苦闘する子、いろいろいますが、みんな



楽しく食事をする事ができませんでした。例年よりも短縮した行事でしたが、十分に満足できたのではないのでしょうか。

お客様をご招待しての行事は今まではできません。しかし、そんな中でも落ち込んでばかりいるのではなく、楽しく過ごす工夫をすることが肝要です。そして、楽しく過ごすための工夫そのものを楽しめるようになれば、このコロナ禍においても前を向いて進んでいくのではないのでしょうか。子ども達の明るい笑顔と笑い声で満たされるような日々を目指してこれからも頑張りたいと思います。



マグロの解体ショー!!!

8月6日、湯田温泉の割烹、「鄙の館」から料理長さん他料理人の方が多数お見えになり、マグロの解体ショーが行われました。

新型コロナウイルスで外出もままならず、ストレスが溜まっているであろう子ども達のために何か力になれることはないかというお申し出をいただき、今回実現しました。

こんな大きなマグロを見るのは皆初めてで、それを見事な職人技で解体していく様は圧巻の一言です。大きな包丁で見る見るうちに捌かれていきます。ステージ上で



行われる解体に子ども達はかぶりつきで無言のまま見入っていました。本物の職人技を目の当たりにすると、皆声も出ないようです(笑)。

解体が終わった後は、そのマグロを握り寿司にして振舞ってくださいました。握る手つきも素晴らしい、あつという間にたくさん握り寿司の完成です。握り寿司はマグロだけでも赤身、中トロ、大トロ等たくさん種類があります。またマグロ以外にも、エビ、イカ、サーモン、イクラ、玉子等、とても豪華な食事になりました。正確に数えてはいませんが、一体何百貫あったのでしょうか。普段なかなか生のお魚を食べる機会がない子ども達は、目を輝かせて夢中になって頬張っていました。

「私、20個(貫)食べた!」「俺は30個(貫)食べた!」と、子どもの嬉しそうな声が響くと、料理長さん他職人の皆さんもとても喜んでくださいました。中には一人で40貫以上食べた子もいて、



大丈夫かなと心配するほどでした。

マグロは日本人にはとても馴染みのある魚ですが、古くは万葉集にも出てくるようで、大昔から食べていた魚です。そのマグロは回遊魚で、よく「泳ぐのをやめると死んでしまう」と言われています。「そんなことがあるのか」と子どもに聞かれたので調べてみたら、どうやら本当のようです。マグロを含む回遊魚は、泳ぐことによつて呼吸をしているのだそうです。魚は通常、エラから空気を取り入れて呼吸していますが、回遊魚は口を開けながら泳ぐことによつ



今回、普段見ることのできない大きなマグロ、それを捌く見事な職人技、そしてたくさんのおいしいお寿司を堪能しました。鄙の館の皆様、本当にありがとうございました。そして、本当にごちそうさまでした。